

## 平成 27 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	国立精神・神経医療研究センター	職名	科研費研究員	助成金額	300,000 円
氏名	白田 謙太郎 印	メール アドレス	k-usuda@umin.ac.jp		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
妊娠中のうつ病のスクリーニングに関する研究					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>【背景・目的】妊娠中のうつ病は母子双方に悪影響を及ぼす可能性が先行研究によって明らかにされている。また、妊娠中のうつ病は産後うつ病の予測因子であることが指摘されており、妊娠中の早い段階でリスクの高い妊婦を見つけることは産後うつ病を予防することにつながるかもしれない。The Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS)は 周産期においても最も高頻度で使用される質問紙である。我が国における産後のカットオフ得点（9 点）については既に明らかにされているが、妊娠中の最適なカットオフ得点についてはまだ明らかになっていない。本研究では妊娠中の最適なカットオフ得点を明らかにするために研究を実施した。</p> <p>【方法】</p> <p>首都圏にある産婦人科病院に通院する、20 歳以上で EPDS が 9 点以上の 12-24 週の妊婦を本研究の対象とした。研究概要の説明を行い、本人による書面での同意を得られた後に調査を実施した。調査では EPDS のほかに人口統計学的背景を聴取し、構造化面接による精神疾患の客観的評価を行い(Mini-International Neuropsychiatric Interview)感度、特異度、陽性反応的中率、陰性反応的中率を求めた。本研究は研究実施機関の倫理委員会の承認を得て実施された。</p> <p>【結果】</p> <p>最終的に 210 人が研究に参加した。そのうちうつ病診断を満たした人数は 20 名であった。</p> <p>上記のデータについて解析を終え、現在国際学術誌に論文を投稿中である。今回得られたデータによって、妊娠中の最適な EPDS のカットオフ得点は産後の得点とは異なる可能性が示されているため、論文が出版されれば妊娠中のうつ病の早期発見に資する研究になると考えている。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
Kentaro Usuda et al.	(仮) The optimal cut-off score of Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS) for major depressive episode (MDE) during pregnancy in Japan.	国際学術誌に投稿済みであり、査読を受けている段階である。			